



蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

1月号

太平洋の荒波が寄せる蒲生干潟

12月9日 15:30 撮影



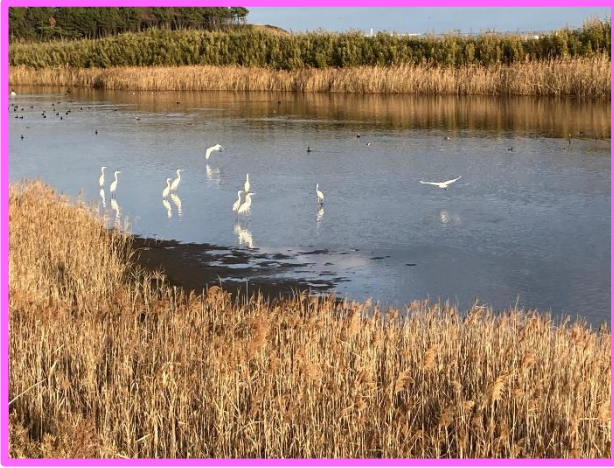
2022年 新しい年の始まり

1月2日 6:58 撮影

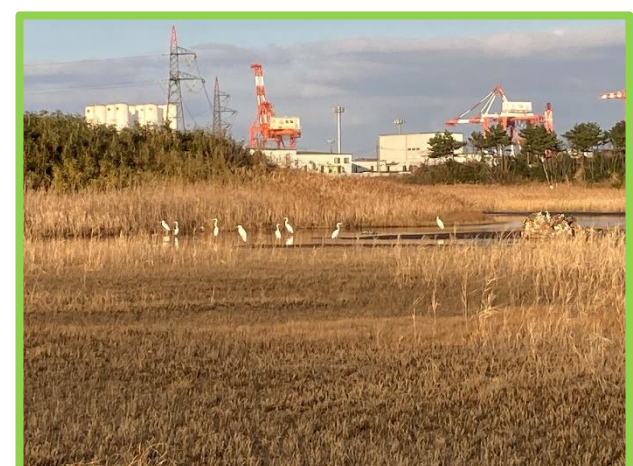


日本の低湿地帯の原風景？（干潟の北側）





堤の上から見た葦原



干潟から見た葦原



これまで観察できた蒲生海浜の植物



アシ（ヨシ）

多年草

河川及び湖沼の水際に背の高い群落を形成する。
地中に地下茎を長く伸ばす。



コウボウムギ

多年草

砂浜に群生する海浜植物
砂の中に長く匍匐茎を伸ばす。



ハマニンニク

多年草

砂浜に群生する海浜植物
地下茎と匍匐茎をよく伸ばす。



シオクグ

多年草

塩生湿地に生え、ヨシなどに交じって大きな群落を形成する。
地下茎は地中に長く横に這う。



ケカモノハシ

多年草

砂浜に束になって生える。
地下茎は砂中を長く横に這う。



ハマニガナ

多年草

砂浜に群生する海浜植物
砂浜で長い地下茎を伸ばす。



ハマヒルガオ

多年草

砂浜に群生する海浜植物
砂の上や中に匍匐茎を伸ばす。



ハマエンドウ

多年草

砂浜に群生する海浜植物
茎は地をはって長さ1mほどになる。





ウンラン

多年草

海岸の砂地に生える。
茎は枝分かれして砂地を這う。



ハママツナ

1年草

河口部で海水が侵入する汽水域の泥土上に生育する。
1日に1回は満潮時に海水に浸る環境に群生する。
春に発芽して、秋に開花結実し、枯死する。



オカヒジキ

1年草

日当たりの良い海岸の砂浜や
砂礫地、塩性地等に生育する。



オニハマダイコン

1~越年草

北米原産の**帰化植物**
海岸の砂地に生える。



クロマツ

海辺を中心に自生するマツ科
の常緑高木で、日本では海岸線
への植樹が古くから行われた。



セイタカアワダチソウ

多年草

北米原産の**帰化植物**
日本では切り花用の観賞
植物として導入。
ススキなどの在来種と競
合して、種子だけでなく地
下茎でも増える。



ハチジョウナ

多年草

史前帰化植物

海岸の砂地や原野など
に生える。
長い地下茎が横に伸び
て、繁殖力が強い。



メマツヨイグサ

2年草

北米原産の**帰化植物**
道端や荒地、河原な
どに生える雑草。



ブタナ

多年草

欧州原産の**帰化植物**
道路脇、空き地、牧場、
草原、農耕地の周辺で生
育している。

今年度、蒲生海浜で確認できた植物の中には、東日本大震災後にこれまで見られなかったと思われる植物が数種見られるようになりました。

元々蒲生海浜に生えていた植物

アシ（ヨシ）・コウボウムギ・ハマニンニク・シオクグ・ケカモノハシ
 ハマニガナハマヒルガオ・ハマエンドウ・ウンラン・クロマツ

多年草で、ほとんどが地下茎を持って群生する植物のようです。

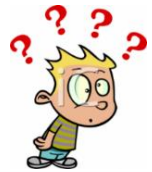
東日本大震災後に生えだしたと思われる植物

ハママツナ・オカヒジキ・オニハマダイコン・セイタカアワダチソウ
 メマツヨイグサ・ハチジョウナ・ブタナ

北米や欧州原産の帰化植物が多いようです。その植物の種はどこから運ばれてきたのでしょうか。近くにある国際貿易港・仙台港の影響もあるのでしょうか。多年草の帰化植物は来年以降も生え、群落域を広げるのではないのでしょうか。また、帰化植物でないハママツナの群落域の広がりも気になります。

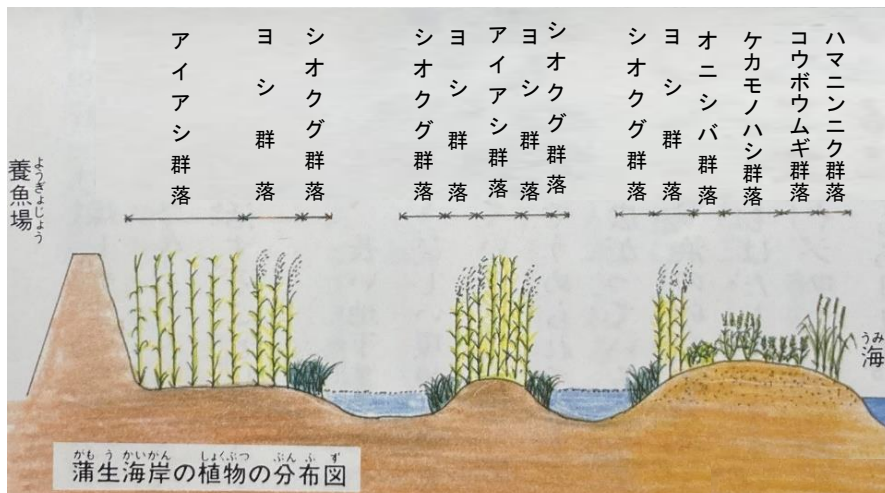


あれだけ広く群生していた
ハママツナが1年草とは！



蒲生海浜では高さ 10m ほどの津波が押し寄せたため、その海浜植物は一時復元不能と言われました。それが元通りとまではいかなくても、再び群生しだしてきたのはなぜでしょうか？

元々蒲生海浜に生えていた植物は、多年草で地下茎をもっています。調べてみると、**地下茎は貯蔵養分に富むことが多く、働きとしては、冬などのように地上が悪環境のときに生き残れること、および栄養繁殖に役だつことがあげられる**とのことでした。津波が押し寄せてきても、地中に地下茎があったために、そこからまた生えだしてきたのではないのでしょうか。



左の 1980 年代の頃の植物の分布図を見ても分かるように、津波で地上に生えていた茎や葉は流されて無くなっても、目に見えない地中には地下茎があるということです。これが海浜植物の生きる仕組みだと思います。

余談①：人里（砂押川）の野鳥は人馴れしているようです！



オナガガモ (WEB 画像)

ユーラシア大陸北部、北米大陸北部から冬鳥として日本全国に多数飛来します。雄の尾が著しく長く、頭部は茶色で胸から首筋が白いです。

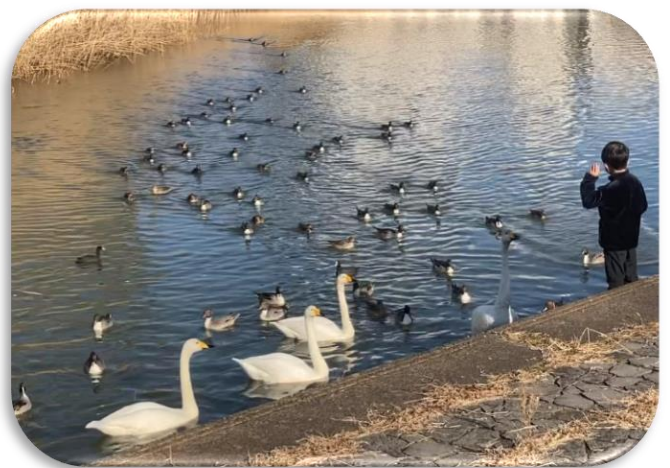
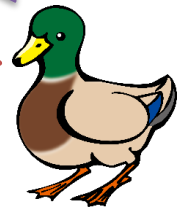


干潟の野鳥は人の気配を感じると（30mほど近づくと）すぐその場を離れてしまいます。地元の砂押川の白鳥とカモ類は3mほど近づいても逃げません。写真も鳥の名前を識別できる大きさに撮ることができます。



オオハクチョウ、オナガガモ、そしてオオバンが近くに寄ってきます。

時折、餌を与えてくれる人がいるので人に馴れてきたようです。



海 岸 清 掃



12月5日（日）に「中野ふるさと YAMA 学校」主催による蒲生海岸の清掃活動が行われました。参加者は全て、蒲生地区以外にお住いです。今回は七北田川河口付近の清掃でした。遊びに来た人たちが飲食した際に捨てた容器類のゴミがたくさん落ちていました。

開会時には早朝より野鳥観察に来ていた方より、蒲生干潟の野鳥、コクガンについての近況報告をしていただきました。

天然記念物のコクガンは夜行性です。海中のアマモ（海草）を食べた後明け方、真水を飲むために七北田川河口に飛来してきます。釣りをするために河口を訪れる人に気づくと別なところへ飛んで行ってしまいます。



清掃活動時には、参加者の方より震災前の蒲生地区の様子を詳しく聞くことができました。蒲生海岸をきれいにするだけでなく、ふるさとの記憶を語り合う貴重な活動でもあるようです。

今回は、ボランティア活動として高校生が1人参加されて、閉会時には修了証書が授与されました。また、近くの高校からも教諭の方が参加されていました。

